市議団NEWS　NO.163　2024年7月10日　発行 日本共産党広島市会議員団
広島市中区国泰寺町1－6－34　TEL 082－244－0844　FAX 082－244－1567

パールハーバー国立記念施設との姉妹協定は誤り

パールハーバー国立記念施設を視察しました

アリゾナ記念館と核開発推進博物館が一つの敷地内に

日本共産党市議団は5月27日～31日、ハワイ・オアフ島のパールハーバー記念施設群の視察を行いました。参加したのは、大西理・中村孝江・中森辰一議員の3人です。費用は、廃止を求めている海外視察費ではなく、政務活動費で交通費と宿泊費をまかないました。

感想をひとことで言えば、パールハーバーの記念施設は軍事施設の中にあり、自由に立ち入ることもできず、核兵器開発推進の立場で展示している施設と一体であり、平和記念公園と姉妹協定をするべき対象ではないということです。

ビジターセンターの左手にアリゾナ記念館への乗船口

ビジターセンターの右手に太平洋艦隊潜水艦博物館

ハワイのパールハーバーは全体が軍事施設です。ハワイのオアフ島には、アメリカのすべての軍隊（海軍、陸軍、空軍、海兵隊）の司令部があり、太平洋からインド洋までの地球の半分を対象とするアメリカ太平洋軍の統合司令部が置かれています。オアフ島そのものが基地の島になっています。その中心がパールハーバーです。

ここにはヒストリック・サイツ（史跡）ということで、第二次世界大戦に関わる記念施設群が存在し、政府が運営しているものと民間団体が運営しているもの（有料）が混在しています。政府（国立公園局）が運営しているものが、今回の平和記念公園との姉妹協定の対象施設となっていて、記念施設群の入り口であるビジターセンター、アリゾナ記念館、オクラホマ記念碑、ユタ記念碑、旧下士官宿舎の5施設がそうです。

アリゾナ記念館の名前を刻んだパネル

それ以外の、戦艦ミズーリ、潜水艦ボーフィン、太平洋艦隊潜水艦博物館、太平洋航空博物館が民間団体の運営です。

これらの施設が別々の区域にあるわけではなく、ビジターセンターとアリゾナ記念館（海上にある同記念館に渡るボートの乗船口がある）、潜水艦ボーフィンと太平洋艦隊潜水艦博物館が、公園のように芝生が広がる一つの区域にあります。

また、戦艦ミズーリ、太平洋航空博物館とオクラホマ記念碑、ユタ記念碑、旧下士官宿舎は、フォード島という海軍の基地島の中にあり、いったんビジターセンターを出て、第二次世界大戦後に設置された橋を渡らないと行くことができません。

だれでも入れるわけではない軍隊による厳しいチェック

ビジターセンターから中に入る際は、バッグや中の見えない袋類は持ち込めず、カメラや携帯電話、財布などを手に持ったりポケットに入れたりして入場するということで、セキュリティ上の制約があります。平和記念公園ではありえないことです。

フォード島に渡る橋の入り口には検問があり、兵士が、車と乗っている人たちをチェックし、運転手兼ガイドは許可を受けた登録証を持った人でないと通行できません。誰でも入れるところではなく、まさに軍事基地の中に入るのです。

ビジターセンターと同じ敷地の中に核開発推進を訴える施設がある

アリゾナ記念館は、日本軍の真珠湾奇襲攻撃の際に沈没して大勢の将兵が一緒に沈んだままになっている真上の海上に設置された施設で、一番奥の壁に亡くなった将兵の名

前が刻まれたパネルがあるだけの追悼施設です。

潜水艦ボーフィンは、戦争中にたくさんの子どもたちを乗せた輸送船「対馬丸」を攻撃して沈めました。ボーフィンの艦体側面には軍艦を表す旭日旗マークよりはるかに多くの商船（軍に徴用され軍需物資を運んだ）を撃沈した証としてたくさんの「日の丸」マークが誇らしそうに表示されていて、その一つが「対馬丸」なのです。

そのボーフィンの係留場所に隣接して太平洋艦隊潜水艦博物館があります。ここは、戦前から戦後の潜水艦の歴史と、特に戦後、核戦略の重要な役割を担い核ミサイルを搭載するようになった経緯、核ミサイルが高性能化・大型化するのに合わせて潜水艦のあり方も変わっていったことが説明されていました。

「自由はタダではない」のスローガン

目を引いたのは、大きく「自由はタダではない！」（FREEDOM ISN'T FREE）というスローガンが書かれたパネルであり、見学順路の最後のところには、先々まで見通した核開発の必要性が語られていました。

ビジターセンターを入って左手には、追悼施設であるアリゾナ記念館があり、右手には核開発を正当化する博物館があります。公園のように芝生が広がるわりと狭い敷地の中に、これらの施設が一体的に存在していました。

実際に行って見てわかったのは、市が言うように、姉妹協定の対象施設ではないから別だというわけにはいかない実態です。

兵士のチェックを受けないと行けない記念施設

オクラホマ記念碑とユタ記念碑は、いずれも日本軍の真珠湾奇襲攻撃の際に両戦艦の乗員として犠牲になった将兵を追悼する記念碑です。民間のツアーのプログラムの関係で（海軍と国立公園局の共同で実施するツアー以外は両記念碑がプログラムに入っていない）ユタ記念碑の方は見れませんでしたが、オクラホマ記念碑は戦艦ミズーリのすぐ近くにひっそりとありました。

民間ツアーの目的は、ミズーリと太平洋航空博物館です。ミズーリは退役した後、艦の内外を全部見ることができるようにしてあり、いかに戦ったかをガイドが説明しますが、丁寧に説明されたのは、艦上で行われた日本の降伏調印式の様子でした。

太平洋航空博物館は戦中・戦後に使用された戦闘機や爆撃機、ヘリコプターなどの軍用機が展示してあるだけのものです。

核弾頭を積んだ核ミサイルの模型（太平洋艦隊潜水艦博物館）

いずれにしても、軍事基地の中にあって、検問で兵士の厳重なチェックを経ないと入れないところに対象施設と対象外施設が、別に区分けをされるわけでもなく存在していました。

ヒロシマが訴える平和とは違うもの

姉妹協定の前文には、「本協定によって･･･平和と和解の架け橋の役割を果たしていく。」と述べられていますが、「和解」という言葉がこの間の協定締結についての説明でもよく使われていました。しかし、加害者と被害者とが「和解」するためには、少なくとも加害者による「反省」が前提となることは当然です。しかし、原爆投下が自国によるものではないかのような表現を含めて、協定締結から1年経ついまも、原爆投下についての「反省」はパールハーバーのどの施設にも見られません。また「平和」についても、パールハーバー国立記念施設を含む諸施設が訴えるのは自分たちの平和、即ち自分たちを守るために、「常に備えよ」という訴えでした。その「備え」には核兵器とその高度化が最も重要な要素となっています。それは、ヒロシマが訴えてきた平和とはまったく異なるものだと実感しました。

核ミサイルを搭載する最新型潜水艦の模型（太平洋艦隊潜水艦博物館）

ビジターセンターの施設内に、原爆による白血病で亡くなった佐々木禎子さんが折った折り鶴の一つが置かれ、説明文がありましたが、そこでは「1945年8月に日本の広島と長崎に原子爆弾が投下され、戦闘は終結しました」と、原爆の使用によって戦争が終わったのだという米国政府の原爆投下を正当化する立場が示されています。

「和解」の言葉はありましたが、米国が原爆を投下した事実はありませんでした。ここには原爆投下を「反省する」立場はありません。ここでも米国が原爆投下の「責任」を考える可能性をみることはできず、「反省」のないまま「和解」だけを強調する姿勢がはっきりしたと思いました。

現状で、米国の原爆投下責任と反省を「棚上げ」にしてまで姉妹協定を結ぶことに、納得できる説明はできないでしょうし、納得は得られないでしょう。